

NEC

WebOTX Media V11 Release 3(DVD)

UL1519-Y1S

インストールガイド(Windows)

ごあいさつ

このたびは、WebOTX Media V11 Release 3 (以下 WebOTX メディアと表記します) をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、お買い上げいただいたセットの内容の確認、DVD-R に含まれるプロダクトの内容を中心に構成されています。WebOTX メディア をお使いになる前に、必ずお読み下さい。

本 DVD-R には、WebOTX V11 の Windows(x64) 製品が格納されています。他 OS の WebOTX 製品をインストールするには、他 OS 用の WebOTX メディアと WebOTX 製品(ライセンス)を用意する必要があります。また、DVD-R メディアを利用するには、DVD-ROM ドライブが必要です。

WebOTX は日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標もしくは商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Reader は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>).

Docker and Docker logo are trademarks or registered trademarks of Docker, Inc. in the United States and/or other countries. Docker, Inc. and other parties may also have trademark rights in other terms used herein

その他記載されている会社名、製品名には各社の商標のものもあります。

目次

1. パッケージの中身を確認してください	1
2. 製品一覧	2
3. ディレクトリ構成	4
4. マニュアルのインストール	6
5. マニュアルのアンインストール	7
6. WebOTX Clientの動作環境	8
ソフトウェア要件	8
複数バージョンインストール	10
必要リソース	11
7. WebOTX Clientのインストール	12
インストール前の作業	12
インストール	14
環境構築	24
環境構築後の作業	33
追加インストール	33
サイレントインストール	40
8. WebOTX Clientのアンインストール	43
アンインストール前の作業	43
アンインストール	43
アンインストール後の作業	47
9. 注意事項	50

1. パッケージの中身を確認してください

WebOTX メディアの添付品が全部そろっているか、構成品表で確認してください。

※本製品にはインストール用の DVD-R 媒体が 1 枚含まれますが、インストール時に必要なライセンスキーが記載された各製品のソフトウェア使用認定証は含まれていません。

2. 製品一覧

このメディアには次の **WebOTX V11.1**(または **V13.1**)の各製品(Windows(x64) プラットフォーム用)と、**Java SE Development Kit 17** が含まれています。

製品名	型番
WebOTX Application Server Express V11.1 Processor License (*1)	UL1519-U2T
WebOTX Application Server Express V11.1 Processor License for Container (*2)	UL1519-U9T
WebOTX Application Server Standard V11.1 Processor License (*3)	UL1519-U0K
WebOTX Application Server Standard V11.1 Processor License Extended Option (*4)	UL1519-UUK
WebOTX Developer V11.1	UL1519-V4T
WebOTX Administrator V11.1	UL1519-Y02
WebOTX Enterprise Service Bus V11.1	UL1519-D0AB
WebOTX Download Contents V11.1	UL1519-U04
WebOTX Object Broker C++ V13.1 Processor License	UL1519-M0V
WebOTX Object Broker Java™ V13.1 Processor License	UL1519-M0W
WebOTX OLF/TP Adapter V11.1(4)	UL1519-A0Z
WebOTX Portal V11.1	UL1519-70AL

- *1 物理サーバ/仮想マシン向けライセンス製品。WebOTX AS Express のフルプロファイル (Windows/Linux)またはマイクロサービスプロファイル(Windows/Linux)を物理サーバ/仮想マシンで利用可能。
- *2 コンテナ向けライセンス製品。WebOTX AS Express のフルプロファイル (Windows/Linux)またはマイクロサービスプロファイル(Linuxのみ)をコンテナで利用可能。
- *3 物理サーバ/仮想マシン向けライセンス製品。WebOTX Application Server Standard のコンテナ向け製品は Linux(x64)のみサポートのため、Windows(x64)版メディアには未収録。
- *4 WebOTX Application Server Standard の CORBA 実行基盤オプション製品であり、WebOTX Application Server Standard を同じ数必要。利用する場合、WebOTX Application Server Standard + Extended Option をインストール。物理サーバ/仮想マシン向けライセンス製品であり、コンテナ向け製品は未提供。

これらの製品を使用するためには、それぞれの製品に応じたライセンスが必要です。

インストール方法については、各製品のインストールガイドを参照して下さい。

また、これらの製品を使用するための「WebOTX Manual」や「WebOTX Client」はライセンスなしでインストールすることができます。「WebOTX Manual」のインストール方法は「4. マニュアルのインストール」を参照して下さい。「WebOTX Client」のインストール方法は「WebOTX Manual」の「7. WebOTX Clientのインストール」を参照して下さい。

3. ディレクトリ構成

DVD-R メディアのディレクトリ構成は次のとおりです。

Windows(x64)プラットフォーム用の製品のみ格納しています。

フォルダ名	製品名
¥EXP	WebOTX Application Server Express V11.1 (※1, 2)
¥CNT	WebOTX Application Server Express V11.1 for Container (※3)
¥STD	WebOTX Application Server Standard V11.1 (※1)
¥STDEXT	WebOTX Application Server Standard + Extended Option V11.1 (※1,6)
¥ADM	WebOTX Administrator V11.1
¥DEV	WebOTX Developer (with Developer's Studio) V11.1
¥DEVCORBA	WebOTX Developer(for CORBA Application) V11.1
¥ESB	WebOTX Enterprise Service Bus V11.1
¥DOWNLOAD	WebOTX Download Contents V11.1
¥OLFTPRUN	WebOTX OLF/TP Adapter V11.1
¥OSPI	WebOTX Object Broker C++ V13.1 Processor License
¥OSPI_J	WebOTX Object Broker Java™ V13.1 Processor License
¥PORTAL	WebOTX Portal V11.1
¥CLI	WebOTX Client V11.1
¥MANUAL	WebOTX Manual V11.1(※4)
¥MSP	WebOTX Application Server Express V11.1(※5)
¥LICENSE	WebOTX V11.1 ライセンス管理プログラム
¥JDK	Java SE Development Kit 17.0.6

※1. WebOTX Application Server には Apache HTTP Server 2.4.56 相当がバンドルされています。

※2. WebOTX Application Server Express のフルプロファイル版を物理サーバ/仮想マシン上で利用するためのインストーラです。V10.3 以前と同じ利用形態です。

※3. WebOTX Application Server Express のフルプロファイル版を Docker コンテナ上で利用するためのスクリプト等を提供します。詳細に関しては製品に添付されている WebOTX Application Server Express for Container のインストールガイド(Windows)を参照してください。

※4. WebOTX Manual のみ Windows(x86)プラットフォームにもインストール可能です。

※5. WebOTX Application Server Express のマイクロサービスプロファイル版です。詳細は製品に添付されている WebOTX Application Server Express マイクロサービス

プロファイル編のインストールガイド(Windows)を参照してください。

※6. WebOTX Application Server Standard の CORBA 実行基盤オプション製品のインストーラ。利用する場合、同一ライセンス方式の WebOTX Application Server Standard と WebOTX Application Server Standard Extended Option のライセンスを同じ数登録する必要があります。

4. マニュアルのインストール

マニュアルは HTML(HyperText Markup Language)形式で提供していますが、一部のマニュアルは PDF (Portable Document Format) 形式でも提供しています。PDF 形式を参照する場合、Adobe Reader のインストーラを別途入手してください。

1)WebOTX メディア の DVD-R 媒体を DVD-ROM ドライブに挿入すると、各 WebOTX 製品のインストールを選択する画面が表示されますので、[WebOTX Manual V11.1]を選択します。DVD-R を挿入しても 画面が自動的に表示されない場合は、コマンドプロンプトで <ドライブ>:\Manual フォルダに移動し、「otxman_V111J.exe」を起動します。
<ドライブ>は、DVD-ROM ドライブのドライブ文字です。

2)Windows インストーラが起動し、「WebOTX Manual」のインストールが始まります。
画面の指示にしたがって、処理を続行してください。

3)「WebOTX Manual」のインストールが完了します。

以上で 「WebOTX Manual」のインストールは完了です。

5. マニュアルのアンインストール

WebOTX のマニュアルをアンインストールする方法は次の通りです。

- 1)コントロールパネルの「プログラムと機能」から「アンインストール」または「変更」ボタンを押します。
または、WebOTX メディアの DVD-R 媒体を DVD-ROM ドライブに挿入して「WebOTX Manual」のインストーラを起動することでアンインストールを始められます。
- 2)Windows インストーラが起動し、「WebOTX Manual」のアンインストールが始まります。
- 3)画面の指示にしたがって、アンインストール処理を続行してください。
ファイルの削除が終了すると、「WebOTX Manual」のアンインストールが完了します。

以上で「WebOTX Manual」のアンインストールは完了です。

6. WebOTX Client の動作環境

ソフトウェア要件

WebOTX Client でサポートするオペレーティング・システム(OS)と、利用するために必要な関連ソフトウェアを説明します。

- オペレーティング・システム (OS)

動作対象の OS として、次の種類をサポートします。

<32 ビット OS>

サポートされません。

<64 ビット OS>

- Windows Server® 2022 Datacenter(※1,2,5)
- Windows Server® 2022 Standard(※1,2,5)
- Windows Server® 2019 Datacenter(※1,2,5)
- Windows Server® 2019 Standard(※1,2,5)
- Windows Server® 2016 Datacenter (※1,2,5)
- Windows Server® 2016 Standard (※1,2,5)
- Windows® 11 Pro (※3, 6)
- Windows® 11 Pro for Workstation (※3, 6)
- Windows® 11 Enterprise (※3, 6)
- Windows® 11 Education (※3, 6)
- Windows® 10 Pro (※4, 6)
- Windows® 10 Enterprise (※4, 6)
- Windows® 10 Education (※4, 6)

(※1) Server Core としてインストールした場合は未サポートとなります。

(※2) Nano Server としてインストールした場合は未サポートとなります。

(※3) バージョン 21H2(ビルド 22000)以降をサポートします。

(※4) バージョン 1809(2019LTSC, ビルド 17763)、バージョン 20H2(ビルド 19042)以降を

サポートします。

(※5) 分離トポロジにおける Web サーバと Web コンテナ連携機能をサポートします。

(※6) 分離トポロジにおける Web サーバと Web コンテナ連携機能は未サポートです。

- Java SE Development Kit

WebOTX システムは、実行時に Java™ Platform, Standard Edition の SDK を必要とします。サポートする SDK バージョンは次のとおりです。

- Oracle Java SE Development Kit 8 (Update 202 以降)
- Oracle Java SE Development Kit 11 (11.0.15 以降) LTS 版(※1)
- Oracle Java SE Development Kit 17 (17.0.3 以降) LTS 版
- OpenJDK 8 (Update 202 以降) (※2,3)
- OpenJDK 11 (11.0.15 以降) (※2, 4)
- OpenJDK 17 (17.0.3 以降) (※2, 5)

※1. Java SE Subscription(有償)契約ユーザのみ取得可能

※2. 各ディストリビュータからリリースされている OpenJDK をサポート

※3. Eclipse Temurin JDK with Hotspot 8u332(2022/4 リリース版を対象)について
製品出荷時に評価済み

※4. Eclipse Temurin JDK with Hotspot 11.0.15(2022/4 リリース版を対象)について
製品出荷時に評価済み

※5. Eclipse Temurin JDK with Hotspot 17.0.3(2022/4 リリース版を対象)について
製品出荷時に評価済み

適用する JDK バージョンには、次の注意・制限事項がありますのでご注意ください。

- WebOTX 製品は、Oracle 社製の Java SDK をバンドルしていますが、Java SDK 自身の保守は行っていませんので、ご了承ください。
- Windows Server 2022 および Windows 11 で Java SE 8 を利用する場合は、Java SE 8 Update 311 以降を対象とします。
※Oracle 社製の Java SDK の場合、Java SE Subscription(有償)契約ユーザのみ取得可能

複数バージョンインストール

WebOTX V10.1からWindows版において、ひとつのOSへ複数バージョンをインストールすることが可能になりました。このインストール条件は、製品のメジャーバージョンとマイナーバージョンが異なることです。

(例) 「WebOTX AS V10.1」と「WebOTX AS V11.1」

そのため、1つのバージョンの製品を異なるインストール・ベースディレクトリにインストールすることは不可です。また、リリース時期により詳細バージョンが異なる場合もサポートされません。

(例) 「10.10.00.000」と「10.11.00.00」

このバージョン番号は、WebOTX運用管理コマンド「otxadmin」で確認できます。

本バージョンで複数バージョンインストールに対応している製品は以下のとおりです。(製品バージョンは省略)

WebOTX Application Server Express
WebOTX Application Server Standard
WebOTX Application Server Standard + Extended Option
WebOTX Developer (with Developer's Studio)
WebOTX Developer (for CORBA Application) (*1)
WebOTX Administrator (*2)
WebOTX Client (*3)

(*1) Visual Basic 開発は複数バージョンインストールに未対応。別バージョンの同一機能がインストール済の場合、インストール対象外に設定要。

(*2) ダウンローダ管理ツールは複数バージョンインストールに未対応。別バージョンの同一機能がインストール済の場合、インストール対象外に設定要。

(*3) Visual Basic クライアント実行環境 / ASP 実行環境 / ダウンローダは複数バージョンインストールに未対応。別バージョンの同一機能がインストール済の場合、インストール対象外に設定要。

上記の製品とそれ以外のWebOTX製品を同時にインストールする場合、異なるバージョンの上記製品をインストールすることはできません。

本バージョンの複数バージョンインストールの共存対象バージョンは、2つ前のメジャーバージョン、かつ本バージョンが諸元としてサポートしているOSの範囲内です。

WebOTXバージョン			備考
V8以前	V9	V10	
対象外	V9.5 ~ V9.6(*1)	V10.1 ~ V10.4	(*1) WebOTX AS Enterpriseは、WebOTX AS Express/Standard/Standard + Extended Option V11.*との共存が可能

必要リソース

ここでは、インストールするために必要な固定ディスク空き容量と、インストール中、およびインストール後の初期動作に必要なメモリ容量について説明します。

下記に示すハードディスク容量は、選択インストール可能な機能やプロダクトを全てインストールした場合を表しています。ただし、JDK などの関連ソフトウェアのディスク消費量は含まれていません。

メモリ容量は、インストール時に既定値を選択して動作させた場合を表しています。

- 必要ハードディスク容量
 - 280MB
- 必要メモリ
 - 最小 256MB、推奨 512MB 以上

7. WebOTX Client のインストール

V10 からインストールと環境構築の連続実行と分離実行を選択することが可能となりました。

インストール前の作業

インストール時の注意事項を以下に示します。

- WebOTX 製品は同一バージョンの複数位置へのインストールはできません。したがって、インストール済の WebOTX のインストール先を変更する場合は、WebOTX のサービス群を停止した後にアンインストールを行なってください。
- インストール作業は、必ず **Administrators** グループに所属した管理者権限があるユーザで行わなければなりません。管理者権限があるユーザでログインしていることを確認してください。

Built-in Administrator ユーザで行うか、管理者権限のあるユーザでも「管理者として実行」によりインストーラを起動してください。

Windows 版のインストーラはレジストリへの書き込みを行います。以下のレジストリキーに **SYSTEM** ユーザ及び **Administrators** グループの書き込み権限が設定されていることを確認してください。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC (*1)

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC (*1,2)

*1 存在しない場合は上位のレジストリキーに権限が設定されていることを確認してください。

*2 64bit 版 Windows にインストールする場合のみ確認してください。

- WebOTX のインストール後に、環境構築ツールの内部で Java を使って環境構築を行います。そのため、WebOTX をインストールする前に、JDK がインストール済みかを確認してください。まだ JDK がインストールされていない場合は、必ず

WebOTX インストール前に JDK をインストールしてください。

- Web サーバと Web コンテナとの連携について

静的コンテンツの処理と動的コンテンツの処理を別マシンや別プロセスに分離できるよう、Webサーバと連携することが可能です。Webコンテナ(Webアプリケーションの実行環境)が動作するWebOTX Application ServerとWebサーバを同一マシンで構成することを「共存トポロジ」と呼びます。また、WebOTX Application ServerとWebサーバを異なるマシンで構成することを「分離トポロジ」と呼びます。

WebOTX Clientでは、「分離トポロジ」のWebサーバとして動作するマシンにおいて、以下のWebサーバの連携設定が行えます。連携可能なWebサーバの詳細は、WebOTX Application Serverのインストールガイド(Windows)の「2. 動作環境」の「ソフトウェア要件」のWebサーバを参照してください。

- Apache HTTP Server
- Microsoft Internet Information Services (IIS)

Caution

「分離トポロジ」の Web サーバとして動作するマシンにおいて、WebOTX Web サーバを利用するためには WebOTX Application Server のライセンスが必要です。

WebOTX Client の Web サーバ連携機能に関するサポート OS は WebOTX AS に準拠します。詳細は「6. WebOTX Clientの動作環境」の「ソフトウェア要件」のオペレーティング・システム (OS)を参照してください。

- 複数バージョンインストールを行う場合の注意

本製品は複数の WebOTX 製品バージョンの同時インストールをサポートしていますが、対応する製品と共存可能な対象バージョンについて、「6.WebOTX Clientの動作環境」-「複数バージョンインストール」に記載された内容を確認してください。既に他のバージョンの WebOTX 製品がインストールされている場合は、その製品のサービス群を停止した後にインストール作業を行ってください。

インストール

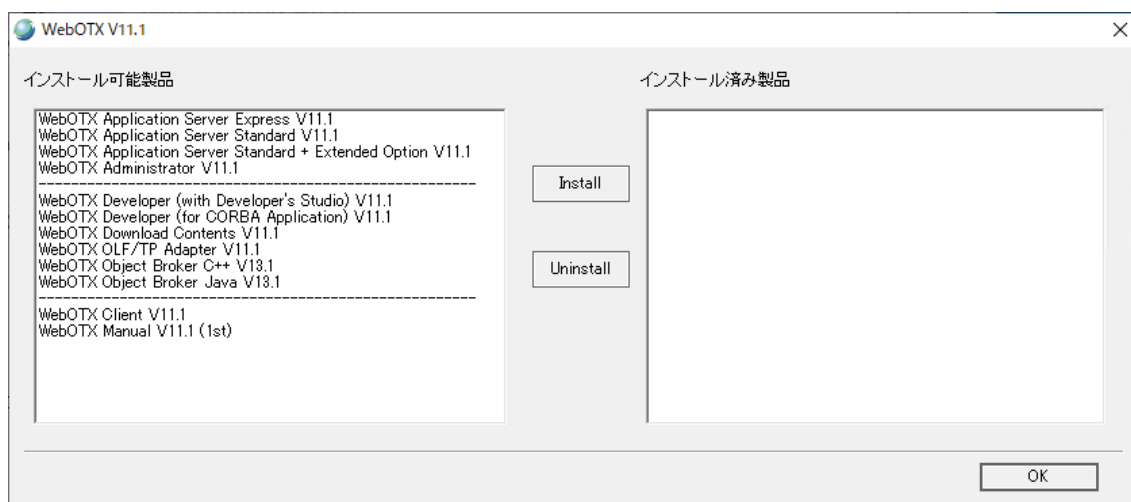
(1) DVD-ROM の挿入とインストーラの起動

WebOTX メディアの DVD-ROM 媒体を DVD-ROM ドライブに挿入すると、次の画面が表示されます。[WebOTX ClientV11.1]を選び、[Install]ボタンを押してください。

DVD-ROM を挿入しても下の画面が自動的に表示されない場合は、エクスプローラで下記のいずれかを実行してください。

- <ドライブ>:wo_setup.exe
- <ドライブ>:¥CLI¥setup.exe

<ドライブ>は、DVD-ROMドライブのドライブ文字です。



(2) [WebOTX Client のインストールへようこそ] 画面

Windows インストーラが起動し「インストールの準備中」というメッセージのあとに次の画面が表示されます。「次へ」ボタンを押してください。



環境構築ツールは起動時に、以下の順で JDK パスを検索します。

1. 別の WebOTX 製品のインストール時に指定された値
2. ユーザ環境変数「JAVA_HOME」に設定された値
3. システム環境変数「JAVA_HOME」に設定された値
4. レジストリ HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥JavaSoft¥Java Development Kit¥CurrentVersion に記載の JDK のパス

OpenJDKのみインストールしているなど、上記のJDKパス検索で一致するものがない場合は以下のダイアログを表示します。JDKをインストールしていない場合、環境構築ツールを一旦終了してJDKをインストールしてください。既にJDKをインストールしている場合、「インストール済みのJDKフォルダ」ダイアログでOpenJDKなどインストール済のJDKのフォルダを指定してください。



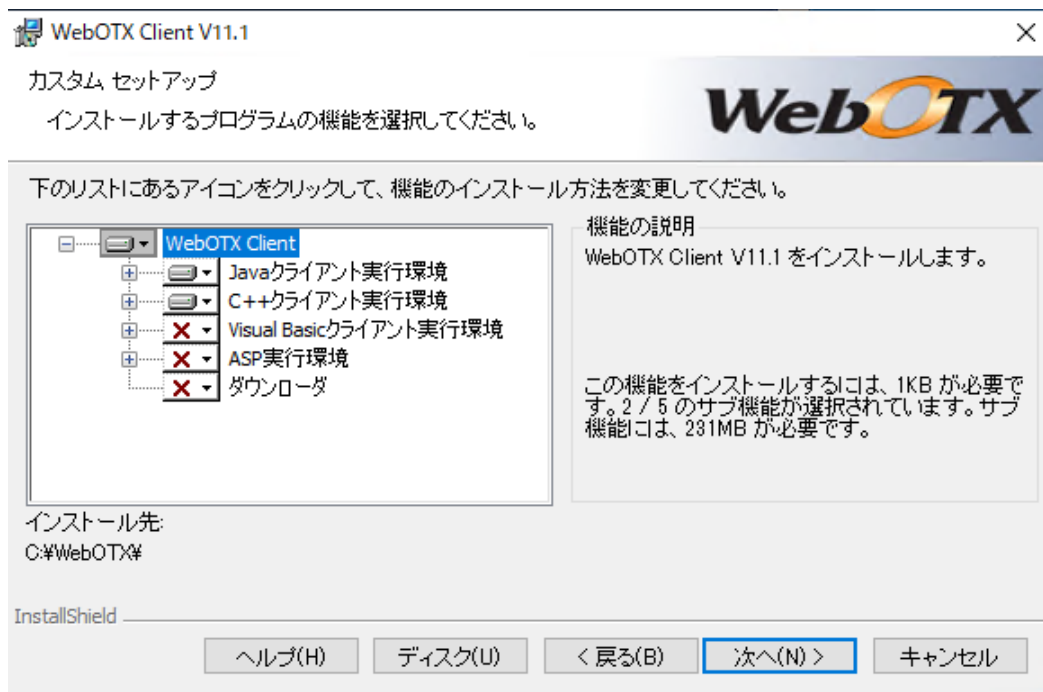
(3) 【インストール先フォルダ】 画面

インストール先フォルダを決定後、「次へ」ボタンを押してください。インストール先フォルダを変更する場合には「変更」ボタンを押してください。他の WebOTX 製品がすでにインストールされている場合、同じフォルダが表示されます。



(4) 【カスタムセットアップ】 画面

インストールする機能を選択後、「次へ」ボタンを押してください。



リストにある各アイコンの意味は次のとおりです。

アイコン	説明
Java クライアント実行環境	WebOTX Java クライアント実行環境をインストールします。 [Object Broker Java クライアント実行環境]、[Java ベースライブラリ]、[WebOTX Java クライアント実行環境]を選択できます。
Object Broker Java クライアント実行環境	Object Broker Java クライアント実行環境をインストールします。他のクライアント製品の動作に必要なため、必ずインストールされます。
Java ベースライブラリ	Java ベースライブラリをインストールします。他のクライアント製品の動作に必要なため、必ずインストールされます。
WebOTX Java クライアント実行環境	WebOTX Java クライアント実行環境をインストールします。
C++クライアント実行環境	WebOTX C++クライアント実行環境をインストールします。 [Object Broker C++クライアント実行環境]、[WebOTX C++クライアント実行環境]を選択できま

	す。
Object Broker C++クライアント実行環境	Object Broker C++クライアント実行環境をインストールします。 他のクライアント製品の動作に必要なため、必ずインストールされます。
WebOTX C++クライアント実行環境	WebOTX C++クライアント実行環境をインストールします。
Visual Basic クライアント実行環境 (*1)	WebOTX Visual Basic クライアント実行環境をインストールします。 [Object Broker C++クライアント実行環境]、 [WebOTX C++クライアント実行環境]、 [COM/Bridge 機能 (CORBA ゲートウェイ, EJB ゲートウェイ)]および、[Visual Basic 6.0 クライアント実行環境]を選択できます。
Object Broker C++クライアント実行環境	Object Broker C++クライアント実行環境をインストールします。 他のクライアント製品の動作に必要なため、必ずインストールされます。
WebOTX C++クライアント実行環境	WebOTX C++クライアント実行環境をインストールします。 必ずインストールされます。
COM/Bridge 機能 (CORBA ゲートウェイ, EJB ゲートウェイ)	COM/Bridge 機能 (CORBA ゲートウェイ, EJB ゲートウェイ)をインストールします。 必ずインストールされます。
Visual Basic 6.0 クライアント実行環境	Visual Basic 6.0 用クライアント実行環境をインストールします。
ASP 実行環境	ASP(Active Server Pages)用の実行環境をインストールします。 [Object Broker C++クライアント実行環境]、 [WebOTX C++クライアント実行環境]、 [COM/Bridge 機能 (CORBA ゲートウェイ, EJB ゲートウェイ)]および、[ASP 配備サービス]を選択できます。
Object Broker C++クライアント実行環境	Object Broker C++クライアント実行環境をインストールします。 他のクライアント製品の動作に必要なため、必ずイ

		インストールされます。
WebOTX C++クライアント実行環境	WebOTX C++クライアント実行環境をインストールします。	必ずインストールされます。
COM/Bridge 機能 (CORBA ゲートウェイ, EJB ゲートウェイ)	COM/Bridge 機能 (CORBA ゲートウェイ, EJB ゲートウェイ)をインストールします。	必ずインストールされます。
ASP 配備サービス	ASP 配備サービスをインストールします。	必ずインストールされます。
ダウンローダ	ダウンローダをインストールします。	

*1 64bit OS の場合、WOW64(32bit 版)対応版を提供します。

(5) [パッチ適用オプション] 画面

インストール時に本製品のパッチを適用する場合、「パッチを適用する」をチェックしてください。

パッチを適用しない場合、「次へ」ボタンを押して次画面に進んでください。



事前に対象マシンにダウンロードした本製品のパッチのファイルを選択し、「次へ」ボタンを押し

てください。



Caution

インストール後にパッチを適用することも可能です。なお、パッチの入手には WebOTX の保守契約が必要です。

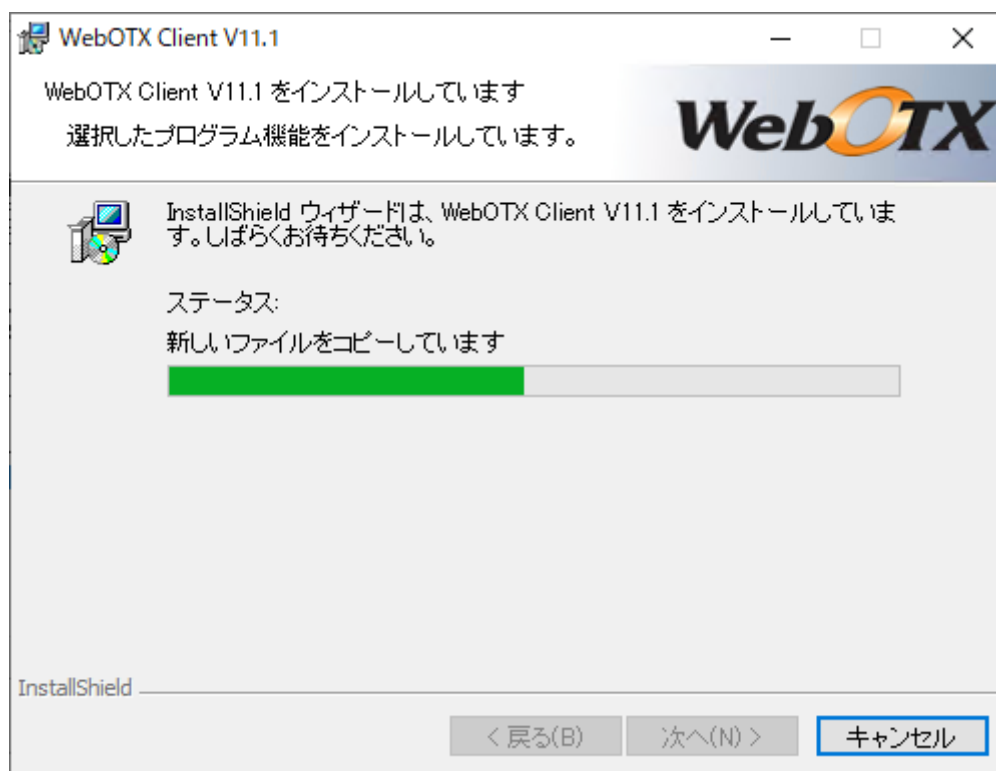
(6) **【プログラムをインストールする準備ができました】画面**

設定を確認して問題ない場合、インストールを開始するため「インストール」ボタンを押してください。



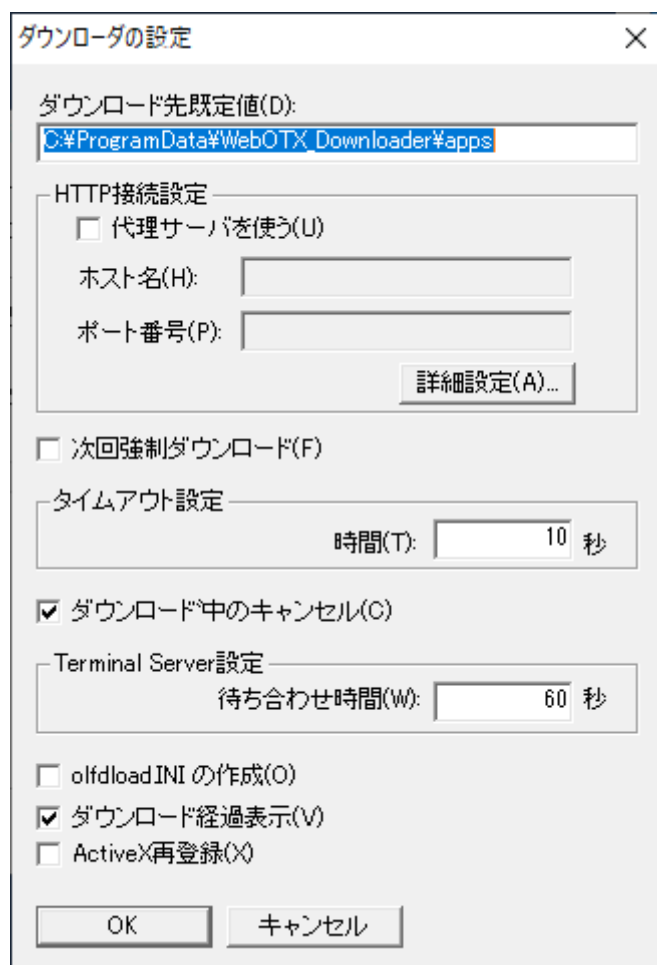
(7) [WebOTX Client をインストールしています] 画面

以下の画面が表示され、ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーが終了するまでお待ちください。



(8) [ダウンローダの設定] 画面

[カスタムセットアップ] 画面で「ダウンローダ」を選択していた場合、以下の画面が表示されますのでダウンローダの設定を入力し「OK」ボタンを押してください。

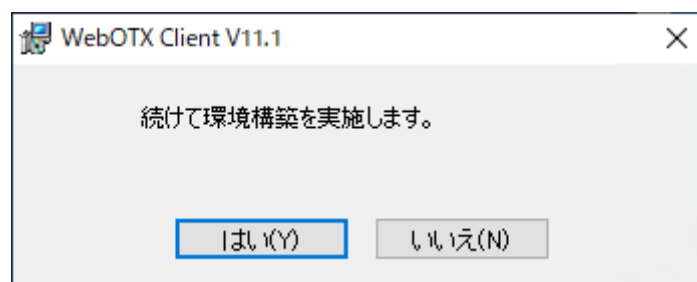


(9) [インストールの完了] 画面

次の画面が表示されたら「完了」ボタンを押してください。これでインストールは完了です。



「完了」ボタンを押すと以下のダイアログが表示されます。続けて環境構築を行う場合は「はい」、後で環境構築を行う場合は「いいえ」を押してください。



環境構築

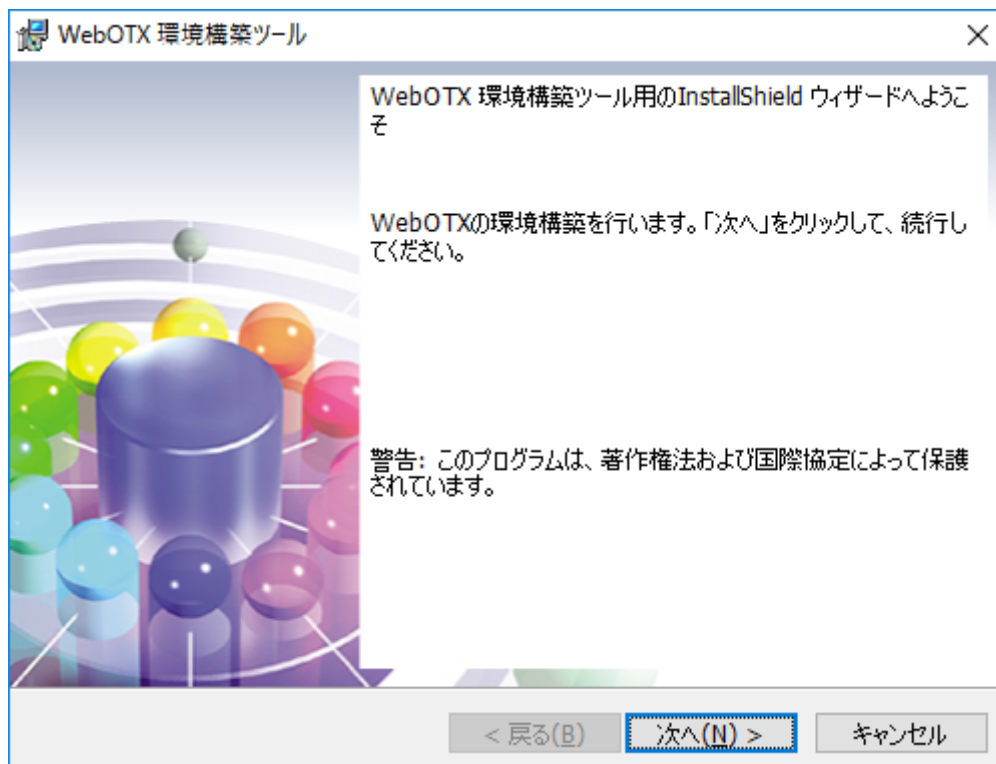
(1) 環境構築ツールの起動

インストールから連続して環境構築を行う場合、本項の作業は不要なため(2)に進んでください。

環境構築ツール(WebOTX_config.exe)は<WebOTXインストールフォルダ>%bin 配下にイン

ストールされています。Built-in Administrator ユーザか、管理者権限のあるユーザでも「管理者として実行」により環境構築ツールを起動してください。

(2) 環境構築ツールが起動し、以下の画面が表示されます。「次へ」ボタンを押してください。



(3) 環境構築の対象製品として「WebOTX Client」を選択し、「次へ」ボタンを押してください。

※インストールから連続して環境構築を行う場合、本項の画面は表示されないため(4)に進んでください。



(4) 既にマシンにインストールされている JDK のフォルダを選択後、「次へ」ボタンを押してください。

環境変数「**JAVA_HOME**」を設定している場合には、その設定値が表示されます。

また、複数の JDK がインストールされている場合、最後にインストールした JDK のフォルダが表示されます。

別のフォルダを選択する場合には「変更」ボタンを押してください。



(5) Web サーバ連携画面

「Web サーバ連携を実施」チェックボックスを選択し、「次へ」ボタンを押してください。

Web サーバ連携を実施しない場合はチェックせず、(7)に進んでください。

WebOTX Application Server と Web サーバを異なるマシンで動作させ、かつ本マシンを Web サーバとして使用する場合はチェックし、(6)に進んでください。



(6) 「Web サーバ連携を実施」を選択した場合

利用する Web サーバから Apache HTTP Server か IIS を選択し、アプリケーションが動作する WebOTX Application Server への接続情報(ホスト名、AJP リスナのポート番号)を入力し、「次へ」ボタンを押してください。

※WebOTX Web サーバは未サポートです。詳細は「インストール前の作業」の「Web サーバと Web コンテナとの連携について」を参照してください。

設定項目	説明
接続先ホスト名	アプリケーションが動作する WebOTX Application Server のホスト名または IP アドレスを入力します。
接続先 AJP リスナのポート番号 (エージェントプロセス用)	アプリケーションがエージェントプロセス上で動作する場合、接続先ホストのエージェントプロセス用の AJP リスナのポート番号を入力してください。
接続先 AJP リスナのポート番号 (プロセスグループ用)	アプリケーションがプロセスグループ上で動作する場合、接続先ホストのプロセスグループ用の AJP リスナのポート番号を入力してください。 (*接続先が WebOTX Application Server Express の場合は不要なため、入力値をクリアしてください。

Apache HTTP サーバの場合、インストールディレクトリも設定してください。

WebOTX 環境構築ツール

Webサーバ種別
セットアップするWebサーバを選択して下さい

WebOTX Webサーバ
WebOTXにバンドルされているWebサーバ(Apache HTTP Server 2.4ベース)を使用する場合に選択します。

IIS
Windows OS付属のMicrosoft Internet Information Services (IIS)を使用する場合に選択します。

Apache HTTP Server
WebOTXにバンドルされていないApache HTTP Server ProjectのWebサーバを使用する場合に選択します。

接続先ホスト名

接続先AJPリスナのポート番号 (エージェントプロセス用) 8099

接続先AJPリスナのポート番号 (プロセスグループ用) 20102

Apache HTTP Server インストールディレクトリ C:\

選択

InstallShield

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

IIS の場合、IIS サイト名も選択してください。

WebOTX 環境構築ツール

Webサーバ種別
セットアップするWebサーバを選択して下さい

WebOTX Webサーバ
WebOTXにバンドルされているWebサーバ(Apache HTTP Server 2.4ベース)を使用する場合に選択します。

IIS
Windows OS付属のMicrosoft Internet Information Services (IIS)を使用する場合に選択します。

Apache HTTP Server
WebOTXにバンドルされていないApache HTTP Server ProjectのWebサーバを使用する場合に選択します。

接続先ホスト名 host

接続先AJPリスナのポート番号 (エージェントプロセス用) 8099

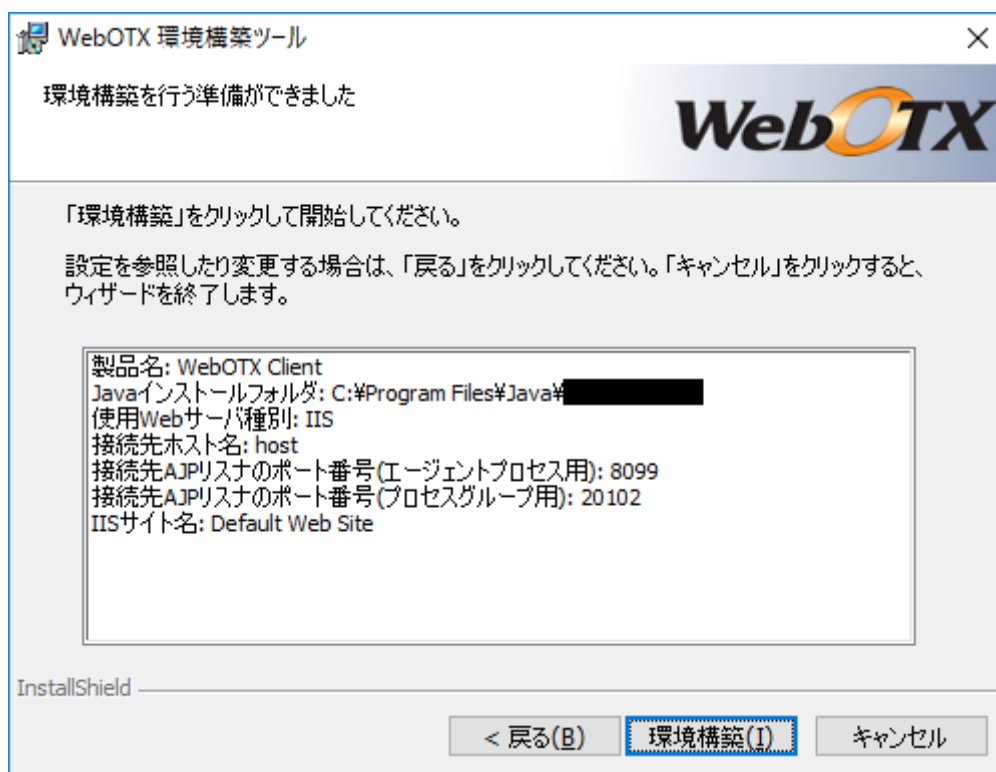
接続先AJPリスナのポート番号 (プロセスグループ用) 20102

IISサイト名 Default Web Site

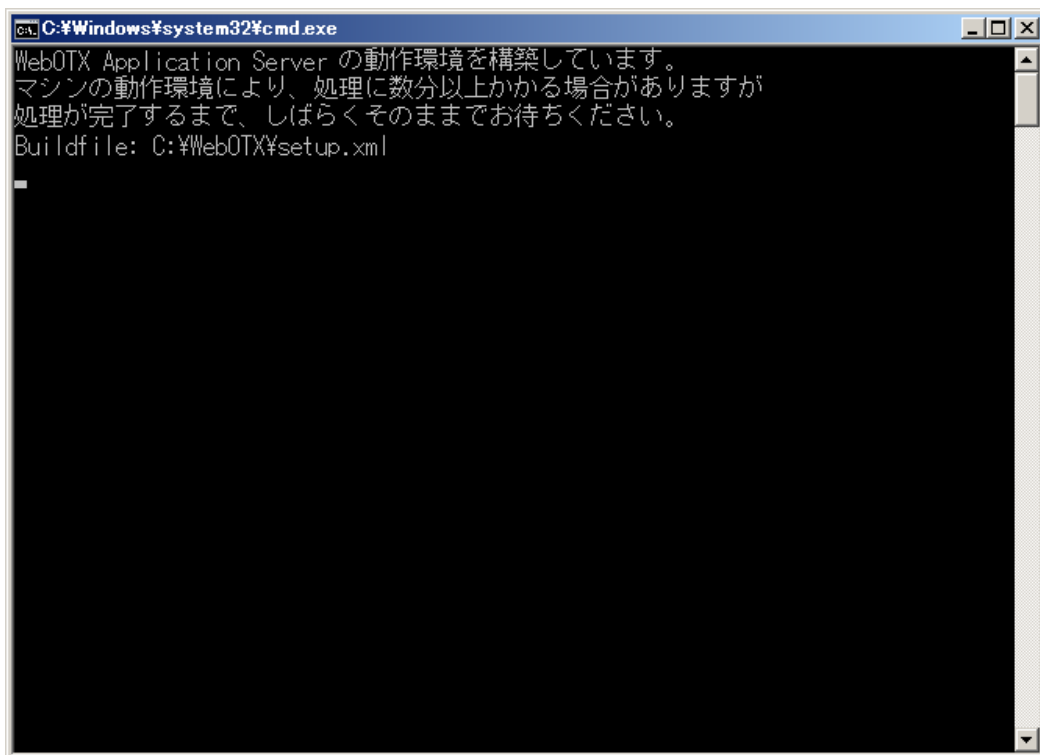
InstallShield

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

(7) 設定を確認して問題ない場合、環境構築を開始するため「環境構築」ボタンを押してください。



(8) WebOTX の環境構築を行うため、以下の画面が表示されます。画面が終了するまでしばらくお待ちください。環境構築の実行結果は、<WebOTX インストールフォルダ>\ant_setup.logで確認できます。



```
ca. C:\Windows\system32\cmd.exe
WebOTX Application Server の動作環境を構築しています。
マシンの動作環境により、処理に数分以上かかる場合がありますが
処理が完了するまで、しばらくそのままお待ちください。
Buildfile: C:\WebOTX\setup.xml
```

Caution

使用する JDK が JDK 17 の場合、以下の WARNING が表示されますが動作に影響ありません。

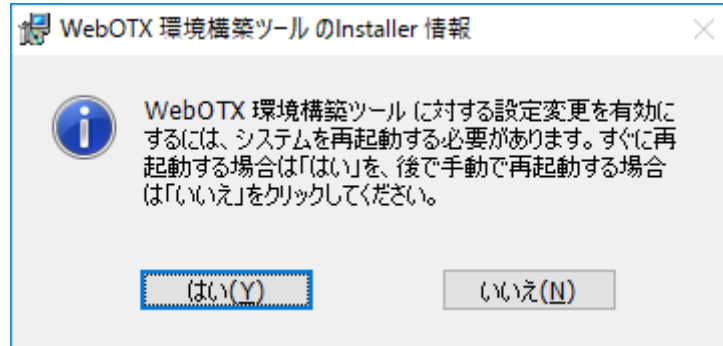
WARNING: A terminally deprecated method in java.lang.System has been called

WARNING: System::setSecurityManager has been called by
org.apache.tools.ant.types.Permissions (file:/<WebOTX インストールフォルダ
>/lib/ant/lib/ant.jar)

WARNING: Please consider reporting this to the maintainers of
org.apache.tools.ant.types.Permissions

WARNING: System::setSecurityManager will be removed in a future release

- (9) インストールから連続して環境構築を行っている場合、コンピュータを再起動してください。
※環境構築ツールを単独で起動した場合、以下のダイアログは表示されません。



環境構築後の作業

- 環境変数 CLASSPATH の設定状況確認

以下のファイルへのパスが環境変数 CLASSPATH の最後に設定されていることを確認してください。

<WebOTX インストール先>%jmq%jmqclient.jar

<WebOTX インストール先>%modules%jsocket.jar

<WebOTX インストール先>%modules%wo-orb110.jar

<WebOTX インストール先>%modules%omgorb110.jar

追加インストール

インストール時に選択しなかったオプション機能を以下の手順で追加インストールすることが可能です。

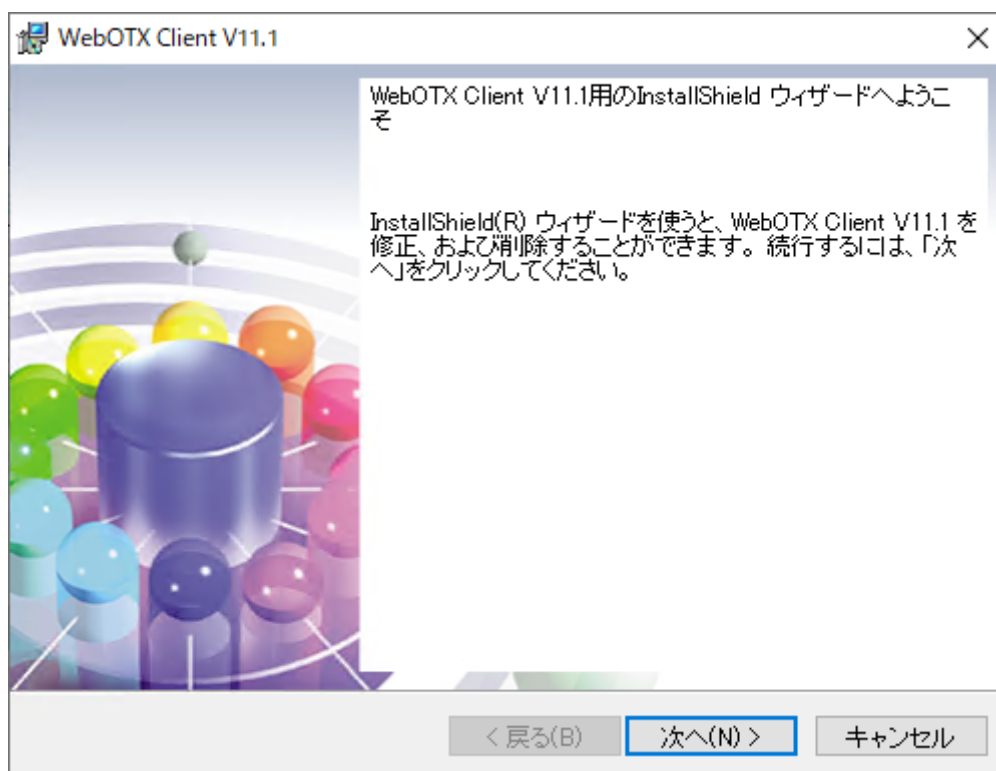
- (1) 追加インストールの開始

WebOTX メディアの DVD-ROM 媒体を DVD-ROM ドライブに挿入し、Built-in Administrator ユーザか、管理者権限のあるユーザでも「管理者として実行」により以下のインストーラを実行してください。

<DVD ドライブ>:%CLI%setup.exe

- (2) [WebOTX Client のメンテナンス] 画面

Windows インストーラが起動し、「インストール準備中」というメッセージが表示されたあとに、次の画面が表示されます。「次へ」ボタンを押してください。



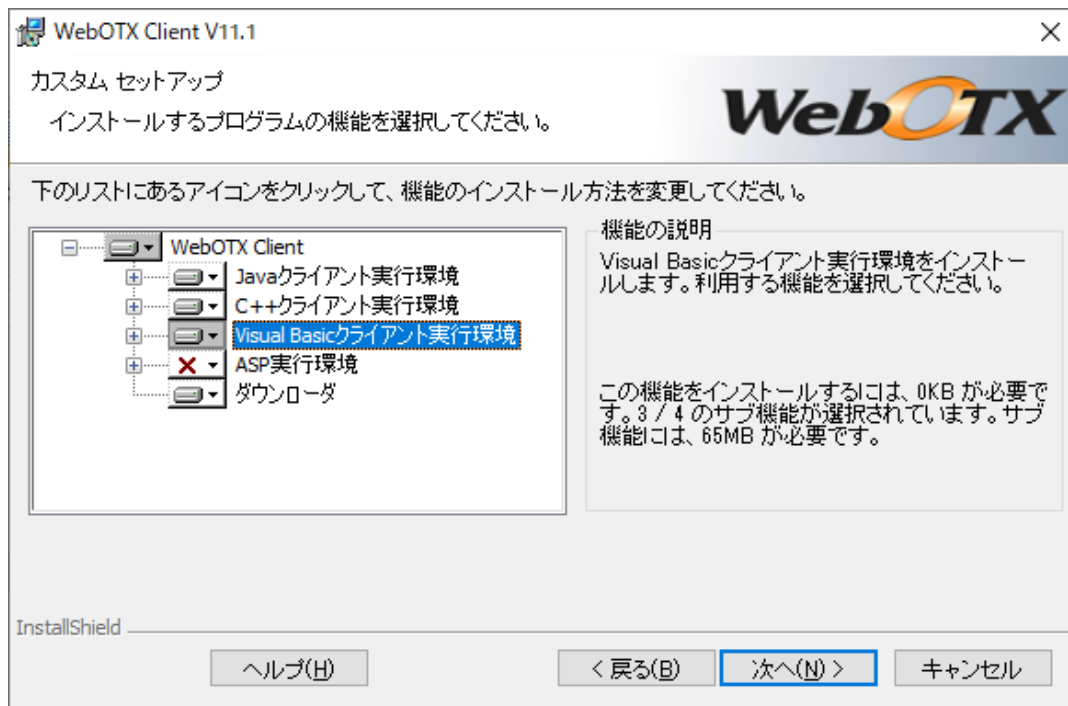
(3) [プログラムの保守] 画面

追加インストールを行うために「変更」を選択し「次へ」ボタンを押します。



(4) [カスタムセットアップ] 画面

追加インストールする機能を選択後、「次へ」ボタンを押してください。また、追加インストールする機能が既にインストール済の場合、「キャンセル」ボタンを押して終了してください。



リストにある各アイコンの意味は次のとおりです。

アイコン	説明
Java クライアント実行環境	WebOTX Java クライアント実行環境をインストールします。 [Object Broker Java クライアント実行環境]、 [Java ベースライブラリ]、[WebOTX Java クライアント実行環境]を選択できます。
Object Broker Java クライアント実行環境	Object Broker Java クライアント実行環境をインストールします。他のクライアント製品の動作に必要なため、必ずインストールされます。
Java ベースライブラリ (*1)	Java ベースライブラリをインストールします。他のクライアント製品の動作に必要なため、必ずインストールされます。
WebOTX Java クライアント実行	WebOTX Java クライアント実行環境をインストール

環境	します。
C++クライアント実行環境	WebOTX C++クライアント実行環境をインストールします。 [Object Broker C++クライアント実行環境]、 [WebOTX C++クライアント実行環境]を選択できます。
Object Broker C++クライアント実行環境	Object Broker C++クライアント実行環境をインストールします。 他のクライアント製品の動作に必要なため、必ずインストールされます。
WebOTX C++クライアント実行環境	WebOTX C++クライアント実行環境をインストールします。
Visual Basic クライアント実行環境 (*2)	WebOTX Visual Basic クライアント実行環境をインストールします。 [Object Broker C++クライアント実行環境]、 [WebOTX C++クライアント実行環境]、 [COM/Bridge 機能 (CORBA ゲートウェイ, EJB ゲートウェイ)]および、[Visual Basic 6.0 クライアント実行環境]を選択できます。
Object Broker C++クライアント実行環境	Object Broker C++クライアント実行環境をインストールします。 他のクライアント製品の動作に必要なため、必ずインストールされます。
WebOTX C++クライアント実行環境	WebOTX C++クライアント実行環境をインストールします。 必ずインストールされます。
COM/Bridge 機能 (CORBA ゲートウェイ, EJB ゲートウェイ)	COM/Bridge 機能 (CORBA ゲートウェイ, EJB ゲートウェイ)をインストールします。 必ずインストールされます。
Visual Basic 6.0 クライアント実行環境	Visual Basic 6.0 用クライアント実行環境をインストールします。
ASP 実行環境	ASP(Active Server Pages)用の実行環境をインストールします。 [Object Broker C++クライアント実行環境]、 [WebOTX C++クライアント実行環境]、 [COM/Bridge 機能 (CORBA ゲートウェイ, EJB

	ゲートウェイ]および、[ASP 配備サービス]を選択できます。
Object Broker C++クライアント実行環境	Object Broker C++クライアント実行環境をインストールします。 他のクライアント製品の動作に必要なため、必ずインストールされます。
WebOTX C++クライアント実行環境	WebOTX C++クライアント実行環境をインストールします。 必ずインストールされます。
COM/Bridge 機能 (CORBA ゲートウェイ, EJB ゲートウェイ)	COM/Bridge 機能 (CORBA ゲートウェイ, EJB ゲートウェイ)をインストールします。 必ずインストールされます。
ASP 配備サービス	ASP 配備サービスをインストールします。 必ずインストールされます。
ダウンローダ	ダウンローダをインストールします。

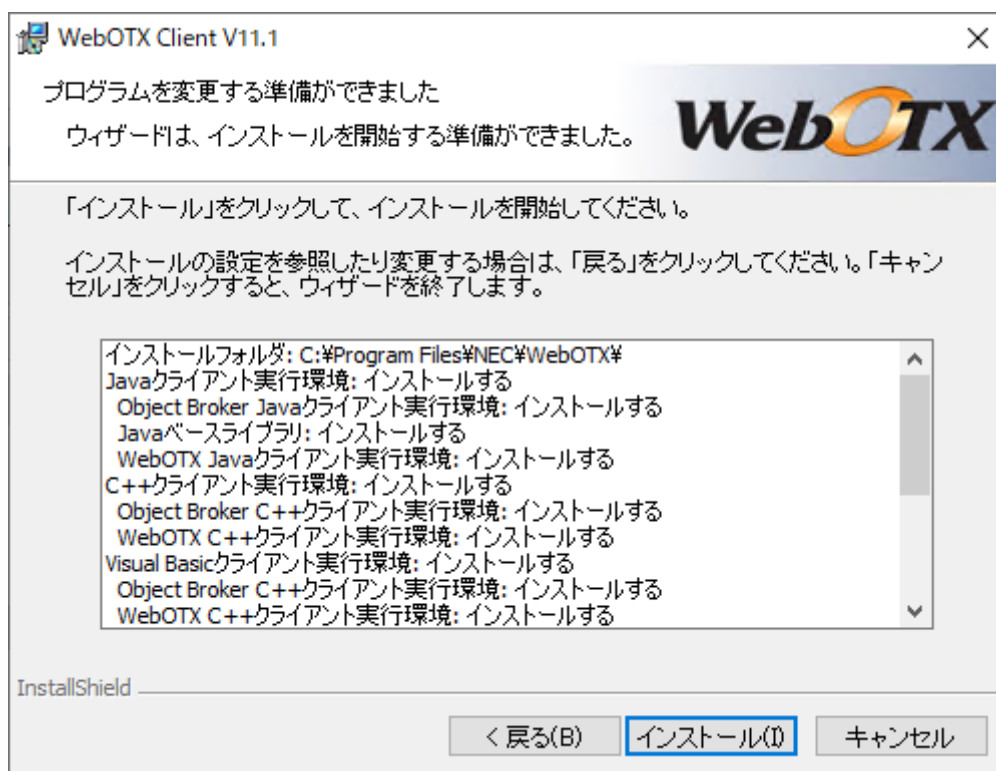
*1 追加インストール時にはインストール後に環境構築ツールは起動しません。

インストール後に手動で環境構築ツールを起動してください。

*2 64bit OS の場合、WOW64(32bit 版)対応版を提供します。

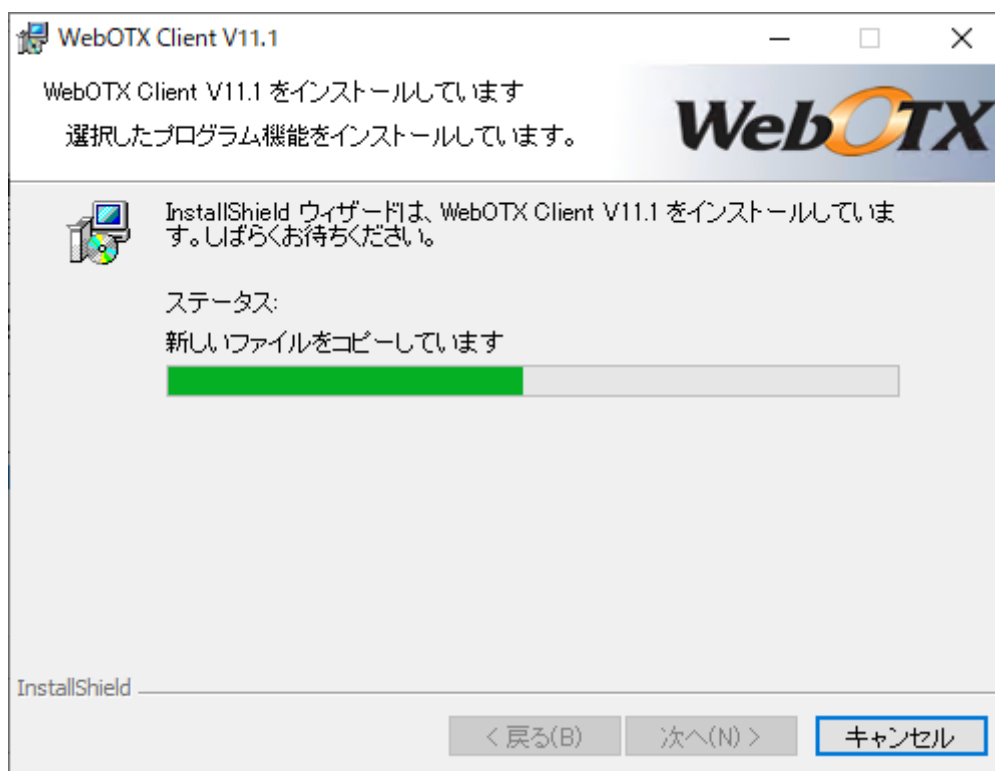
(5) [プログラムをインストールする準備ができました] 画面

追加インストールを開始するため「インストール」ボタンを押してください。



(6) [WebOTX Client をインストールしています] 画面

以下の画面が表示され、ファイルのコピーが始まります。選択された機能により、セットアップに必要な時間は異なります。ファイルのコピーが終了するまでお待ちください。



(7) [インストールの完了] 画面

次の画面が表示されたら「完了」ボタンを押してください。これで追加インストールは完了です。



サイレントインストール

コマンドプロンプトからコマンド引数を設定してインストーラ(setup.exe)を実行することにより、サイレントインストールと環境構築を行うことが可能です。

デフォルト値でサイレントインストールと環境構築を行う場合に設定するコマンド引数は次の通りです。

※デフォルト値の場合、環境構築完了後に OS 再起動します

```
<DVD ドライブ>:¥CLI¥setup.exe /v"/qn"
```

デフォルト値以外の値を設定する場合は、次のプロパティ情報を /qn の前に追加してください。

プロパティ	説明
INSTALLDIR=¥"WebOTX インストール先¥"	INSTALLDIR には、WebOTX インストール先を設定します。このプロパティを省略した場合、<Windows ドライブ>:¥Program Files¥NEC¥WebOTX にインストールされます。
JAVA_HOME=¥"JDK インストール先¥"	JAVA_HOME には、JDK インストール先を設定します。このプロパティを省略した場合、以下の順に JDK のパスを検索します。 1. 別の WebOTX 製品のインストール時に指定された値 2. ユーザ環境変数「JAVA_HOME」に設定された値 3. システム環境変数「JAVA_HOME」に設定された値 4. レジストリ HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥JavaSoft¥Java Development Kit¥CurrentVersion に記載の JDK のパス

ADDLOCAL=¥"インストールする機能¥"	ADDLOCAL には、インストールする機能を設定します。 製品ごとに設定できる内容が異なります。下表からインストールする機能をカンマ区切りで羅列して指定してください。	
	機能名	ADDLOCAL に設定する文字列
	Java クライアント実行環境	JAVA
	WebOTX Java クライアント実行環境	JAVA_WebOTX
	C++クライアント実行環境	CPP
	WebOTX C++ クライアント実行環境	CPP_WebOTX
	VB クライアント実行環境	VB
	Visual Basic 6.0 クライアント実行環境	VB_6
	ASP 実行環境	ASP
	ダウンローダ	DL
REBOOT=¥"ReallySuppress¥"	REBOOT に ReallySuppress を指定することで、サイレントインストール後の OS 再起動を抑制することができます。	
IS_WEBSERVER_CONFIG=¥"YES NO¥"	IS_WEBSERVER_CONFIG には Web サーバ連携設定を行うか否かを設定します。Web サーバ連携を実施する場合は YES を指定します。このプロパティを省略した場合は NO が適用されます。	
<ul style="list-style-type: none"> ● 以下は IS_WEBSERVER_CONFIG に YES を指定した場合に使用するプロパティです。 		
SEPARATE_WEBSEVER_TYPE=¥"IIS Apache¥"	SEPARATE_WEBSEVER_TYPE には使用する Web サーバの種類を指定します。IIS を使用する場合は IIS、Apache HTTP Server を指定する場合は	

	Apache を指定してください。このプロパティを省略した場合は Apache が利用されます。
SEPARATE_HOST_NAME=¥”連携先ホスト名または IP アドレス¥”	SEPARATE_HOST_NAME にはアプリケーションが動作する連携先のホスト名または IP アドレスを指定します。必ず指定してください。
SEPARATE_AJPLSN_PORT=¥”連携先ポート番号¥”	SEPARATE_AJPLSN_PORT にはアプリケーションが動作するホストの AJP リスナ(エージェントプロセス用)のポート番号を指定します。
SEPARATE_AJPLSN_PORT_PG=¥”連携先ポート番号¥”	SEPARATE_AJPLSN_PORT_PG にはアプリケーションが動作するホストの AJP リスナ(プロセスグループ用)のポート番号を指定します。連携先で動作する Application Server が Standard の場合は指定してください。Express の場合は指定不要です。
SEPARATE_IIS_SITE_NAME¥”IIS サイト名¥”	SEPARATE_WEBSERVER_TYPE に IIS を指定した場合に連携する IIS サイト名を指定します。IIS を使用する場合は必ず指定してください。
SEPARATE_APACHE_INST_DIR=¥”Apache インストールディレクトリ¥”	SEPARATE_WEBSERVER_TYPE に Apache を指定した場合に連携する Apache HTTP Server インストールディレクトリを指定します。Apache HTTP Server を使用する場合は必ず指定してください。

サイレントインストールで「ダウンローダ」を選択すると、デフォルトでは「ダウンローダの設定」ダイアログが表示され画面操作が必要となります。これを回避するには、下記の手順でサイレントインストールを実行します。

1. ダウンローダインストーラの定義ファイル `olfdload.ini` ファイルを作成し、「ダウンローダの設定」ダイアログを非表示にするために次の設定を記載する。

`QuitMessage=1`

2. 1 の `olfdload.ini` ファイルを Windows ディレクトリに配置する。
3. 次のように /qr オプションでサイレントインストールを実行する。

`<DVD ドライブ>:¥CLI¥setup.exe /v"/qr"`

8. WebOTX Client のアンインストール

アンインストール前の作業

- (1) 運用管理コマンドや WebOTX のインストールディレクトリ配下のライブラリを参照しているアプリケーションが動作している場合はすべて停止してください。

※アンインストールに関する注意制限事項は「9. 注意事項」を確認してください。

アンインストール

- (1) アンインストールの開始

「アプリケーションの追加と削除」から「変更」ボタンを押します。

または、WebOTX メディアの DVD-ROM 媒体を DVD-ROM ドライブに挿入すると、WebOTX 製品の統合セットアップ画面が表示されます。画面右のインストール済み製品フィールドからアンインストールする製品名を選び、[Uninstall] ボタンを押します。

- (2) [WebOTX Client のメンテナンス] 画面

Windows インストーラが起動し、「インストール準備中」というメッセージが表示されたあとに、次の画面が表示されます。「次へ」ボタンを押してください。



(3) [プログラムの保守] 画面

アンインストールを行うために「削除」を選択し「次へ」ボタンを押します。



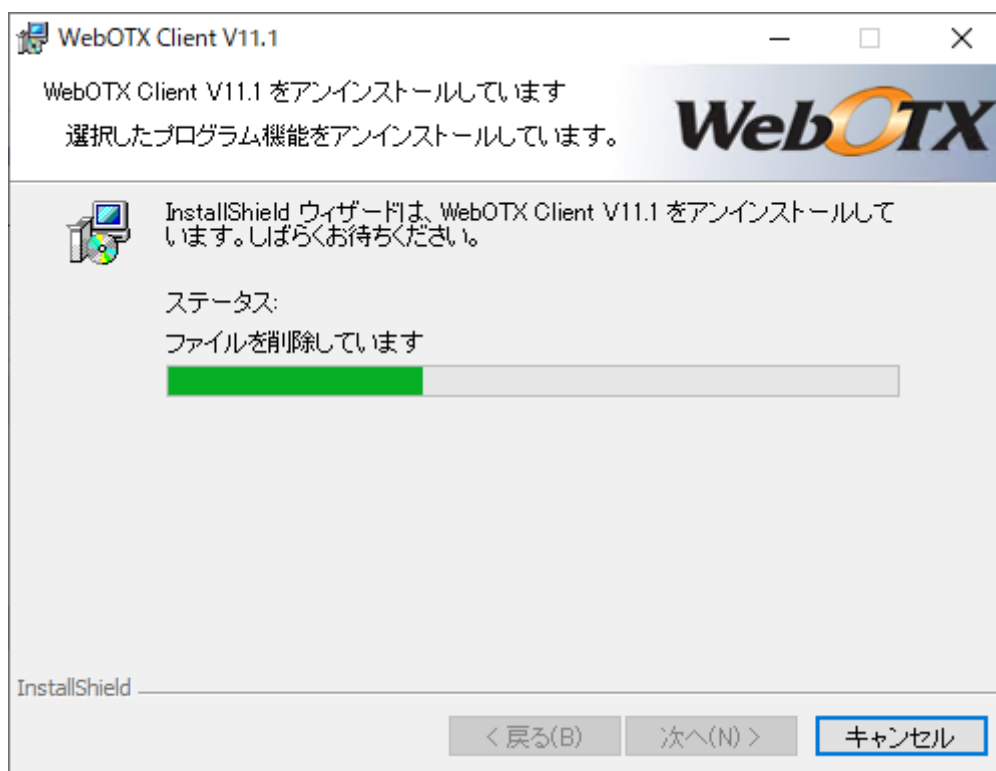
(4) [プログラムの削除] 画面

アンインストールを開始するため、「削除」ボタンを押します。



(5) [アンインストールしています] 画面

以下の画面が表示され、ファイルの削除が始まります。削除が終了するまで時間がかかりますので、しばらくお待ちください。



(6) [アンインストールの完了] 画面

次の画面が表示されたら、アンインストールは完了です。「完了」ボタンを押します。



アンインストール後の作業

(1) WebOTX の動作環境ファイルの削除を行なってください。

WebOTX インストールフォルダ配下に WebOTX の動作環境のファイルが残っている場合があります。これらのファイルは削除してもかまいません。

(2) Web コンテナと外部 Web サーバとの連携の設定解除

Web コンテナと WebOTX Web サーバ以外の外部 Web サーバとの連携の設定を行った場合、WebOTX をアンインストールしても、外部 Web サーバには連携設定の内容が残っているため、その定義を削除しなければなりません。連携設定を解除せずそのまま Web サーバを使い続けた場合、システムによっては Web サーバが正常に起動しなくなる可能性があります。下記の作業を行ってください。

Web サーバごとの連携設定の解除方法を下記に説明します。

[IIS]

1. IIS マネージャを起動します。
2. 仮想ディレクトリの削除
連携していた「Web サイト」を展開し、仮想ディレクトリ「<ドメイン名>_webcont」を削除します。
3. ISAPI フィルタの削除
連携していた Web サイトのプロパティを開き、「ISAPI フィルタ」から「<ドメイン名>_webcont」を削除します。
4. 認証設定の変更
IIS の設定時に変更した基本認証の設定を必要に応じて変更してください。また、Web コンテナの認証ユーザを Windows システムに登録した場合、不要ならば Windows システムのユーザを削除してください。
5. ISAPI 制限の削除
IIS マネージャでサーバの階層を開き、「ISAPI および CGI の制限」から「<ドメイン名>_webcont」を削除します。

[Apache HTTP Server]

インストールディレクトリの conf ディレクトリ配下にある httpd.conf ファイルをエディタで編集します。「# TM_WS_PLUGIN-start」から「# TM_WS_PLUGIN-end」の記述を削除してください。

```
# TM_WS_PLUGIN-start
include "<WEBOTX_DOMAIN_HOME>/config/WebCont/mod_jk-24.conf "
# TM_WS_PLUGIN-end
```

(3)環境変数 CLASSPATH の削除状況の確認

環境変数 CLASSPATH に以下のファイルへのパスが残っている場合があります。

※環境変数 CLASSPATH が削除されている、またはファイルへのパスが残っていない場合、本作業は必要ありません。

```
<WebOTX インストール先>%jmq%jmqclient.jar
<WebOTX インストール先>%modules%jsocket.jar
<WebOTX インストール先>%modules%wo-orb110.jar
<WebOTX インストール先>%modules%omgorb110.jar
```

- 環境変数 CLASSPATH の値が上記ファイルへのパスのみで他に値がない場合 [コントロールパネル] - [システム] - [システムの詳細設定] - [環境変数]で環境変数 CLASSPATH を削除してください。

- 環境変数 CLASSPATH の値に上記ファイルへのパス以外の値がある場合
[コントロールパネル] - [システム] - [システムの詳細設定] - [環境変数]で環境変数 CLASSPATH の編集から上記ファイルへのパスのみ削除してください。

これでアンインストール作業は完了です。

9. 注意事項

WebOTX Client の注意事項は以下の通りです。

- コンピュータの再起動
インストールおよび環境構築後、運用を行う場合には必ずコンピュータの再起動を行ってください。コンピュータを再起動しないと、本製品は正常に動作しません。
- 各 WebOTX 製品の複数混在環境
各 WebOTX 製品のインストールにおいて、既に他の同一バージョンの WebOTX 製品がインストールされている場合、「インストール先フォルダ」には同じフォルダを指定してください。
- 「アプリケーションの追加と削除」で「アンインストール」ボタンを選択した場合、アンインストールの画面がすべて表示されずにアンインストールが始まります。
- アンインストールは、必ず Administrators グループに所属した管理者権限があるユーザで実行してください。
- アンインストール時に、インストールフォルダにディレクトリやファイルが残る場合があります。アンインストール完了後、すべて削除してください。
- 複数バージョンインストール時のスタートメニュー
他のバージョンの WebOTX 製品がインストールされている場合、Windows の仕様により本バージョンのショートカットの一部がスタートメニューに表示されません。以下のフォルダに格納されているショートカットをデスクトップ等にコピーして使用してください。

C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\WebOTX 11.1

- Visual Basic クライアント実行環境 / ASP 実行環境 / ダウンローダは複数バージョン

ンインストールに未対応です。別バージョンの同一機能がインストール済の場合、インストール対象外に設定してインストールする必要があります。

その他の注意制限事項に関してはマニュアルを参照して下さい。